

くすみ赤・オレンジ色のミニグラジオラス新品種候補「ひたち13号」(仮称)の育成			
[要約] グラジオラス新品種候補「ひたち13号」はくすみ赤・オレンジ色でホームユース向けのミニグラジオラス系統である。極早生で、既存ミニグラジオラスと比較して切花長は安定して短い。主要病害の発生は既存ミニグラジオラス品種と同程度に少ない。			
茨城県農業総合センター生物工学研究所 " 園芸研究所	令和4年度	成果区分	普及

1. 背景・ねらい

グラジオラスは本県の主力切り花品目（全国第2位）であり、露地栽培でありながら10a当たりの所得が58万円と高いため、若手を含めた新しい経営体が増えつつある。また、社会情勢の変化による花きの家庭需要の増加が見込まれる。そこで、本県の作型に適した、新規需要に対応したホームユース向け（ミニ中小輪系）の商品性の高い県オリジナル新品種を育成する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 「ひたち13号」は平成26年交配「アンバー」×「トーマス」の選抜系統である。
- 2) 花色はくすみ赤・オレンジ色で（写真左）、RHSカラーチャート値は22Cである。
- 3) 切花長は80～85cm程度で、「アンバー」、「トーマス」と比べて安定して短い（表1、写真右）。
- 4) 花径は8cm程度で、「アンバー」より小さく、「トーマス」より大きい（表1）。
- 5) 到花日数は「アンバー」と同程度で、極早生である（表1）。
- 6) 主要病害の発生は既存ミニグラジオラス品種と同程度に少なく（表1）、曲がりも少ない（データ略）。
- 7) 穂やけ症耐性は、「アドレナリン」（耐性評価：強）より穂焼け症の発生が少なく、強である（データ略）。
- 8) 球根増殖性は「常陸はなよめ」と同程度である（データ略）。
- 9) 日持ち日数は、既存ミニグラジオラス品種と比べて同等～わずかに長い（データ略）。
- 10) 現地検討会において関係者からは、花の大きさ・バランス、総合評価がやや良と、高く評価されている（表2）。
- 11) 現地適応性検定試験の結果、収量性・作りやすさ、切り花品質、総合評価は「良」で、導入希望、品種化要望は「有」である（表3）。
- 12) 市場・流通関係者からは、花色・花の大きさ・全体のボリュームは「良い」が約6割と高い。商品性は「良い」が46%、「普通」が38%である。取扱い希望時期は「抑制（9～10月）」が52%と最も高く（データ略）、秋口（彼岸）の需要が見込まれる。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 従来の冠婚葬祭用途ではなく、新規需要（ホームユース等）が期待される。
- 2) 球根から複数の芽が発生する（2等球根ではほぼ100%、3等球根で37.1～40.5%、4等球根で2.3～11.5%）。芽かきを省略するには4等球根を使用する。
- 3) 普及対象：県南地域（土浦市周辺市町）

4. 具体的データ

表1 「ひたち13号」の特性 (R1~R4)

系統・品種	試験年度	定植日 (月/日)	開花日 (月/日)	到花日数 (日)	花色等	丈・ボリューム				病害発生 (達観6段階評価)			
						切花長 (cm)	花穂長 (cm)	花径 (cm)	小花数 (花)	赤斑病	首腐病	乾腐病	ウイルス 症状
ひたち13号	令和4年	5/16	7/26	71	くすみ赤・オレンジ ぼかし	89.8	37.4	7.8	14.3	無	無	無	微
	令和3年	5/13	7/19	67		85.2	36.6	8.7	14.6	微	無	無	微
	令和2年	5/13	7/22	70		78.9	34.3	-	14.8	無	無	微	微
	令和元年	5/13	7/23	71		80.8	36.0	7.3	15.4	無	無	微	無
	4カ年平均			69.8		83.7	36.1	7.9	14.8				
アンバー	令和4年	5/16	7/25	70	淡黄	107.6	39.3	8.9	15.4	無	無	無	無
	令和3年	5/13	7/19	67		106.6	46.2	8.9	16.6	無	微	少	無
	令和2年	5/13	7/21	69		94.5	46.8	8.6	15.6	無	少	無	微
	令和元年	5/13	7/27	75		87.4	36.4	8.3	12.6	無	微	無	無
	4カ年平均			70.3		99.0	42.2	8.7	15.1				
トーマス	令和4年	5/16	7/22	67	小豆色 ・赤すじ	105.9	46.0	6.8	15.6	無	無	無	無
	令和3年	5/13	7/18	66		111.3	47.7	6.9	16.2	少	無	無	無
	令和2年	5/13	7/16	64		100.4	44.4	7.2	15.8	無	微	無	無
	令和元年	5/13	7/19	67		106.6	56.0	7.0	17.8	無	微	無	無
	4カ年平均			66.0		106.1	48.5	7.0	16.4				

- 1) 耕種概要: 令和元年、令和4年はN:P₂O₅:K₂O=各10kg/10a (肥効調節型肥料15-15-15、全面全層施肥)、令和2年と令和3年は無肥料。その他の栽培および病害虫管理は茨城県栽培基準に準じた。定植間隔は3~4等球を4条植え・株間10cm間隔とした。
 2) 花き形質に関する調査は農林水産省品種登録審査に係るグラジオラス属審査基準に準じて行った。病害発生は無、微、少、中、多、甚の6段階評価。
 3) 供試球根は3~4等球 (令和4年はいずれの品種も3等球) を使用した。令和元年と令和2年は生育中庸な5本、令和3年と令和4年は生育中庸な10株で調査した。

表2 「ひたち13号」の現地検討会における関係者評価 (R3)

系統	花色 (1~5)	花の大きさ・バランス (1~5)	総合評価 (1~5)	コメント
ひたち13号	3.8	4.3	3.9	<ul style="list-style-type: none"> ・サイズ感良い、パック加工に合いそう (JA関係) ・バランスが良い、単色よりも良い (JA関係) ・あまり売れない色かも (JA関係) ・花と花の間が短く、(流れるような) グラジオラスの個性が出しにくいと思う (個人) ・色が良くない (行政)

- 1) 5段階評価、1: 良くない、やや良くない、3: 普通、4: やや良い、5: 良い
 2) 値は、生産者・JA関係・個人 (就農希望者)・球根団体・県関係 (普及、研究、行政、教育) の参加者13名の内、回答のあった12名の平均値を示す。

表3 「ひたち13号」の現地適応性 (R4)

「ひたち13号」		評価
評価項目		
収量 (歩留り)	極良	良・普通・劣・極劣
作りやすさ	極良	良・普通・劣・極劣
赤斑病の発生	無	少・普通・多・甚
アザミカ類の発生	無	少・普通・多・甚
ダニの発生	無	少・普通・多・甚
その他病害虫	無	少・普通・多・甚
穂腐れ症の発生	無	少・普通・多・甚
穂焼け症の発生	無	少・普通・多・甚
切り花品質	極良	良・普通・劣・極劣
総合評価	極良	良・普通・劣・極劣
導入希望	有	無
導入見込 (個人)		15,000球
品種化要望	有	無



写真左 「ひたち13号」の花姿
 写真右 「ひたち13号」の草丈比較 (左から「ひたち13号」、ミニ2品種、普通2品種)

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

新品種育成普及促進事業・平成6年度～・生物学研究所 果樹・花き育種研究室
 園芸研究所 花き研究室